

NISHISHIMOYASHIKI-SITE

# 西下屋敷遺跡

田園交流基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2005

北杜市教育委員会

峡北地域振興局農務部

NISHISHIMOYASHIKI-SITE

# 西下屋敷遺跡

田園交流基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2005

北杜市教育委員会

峡北地域振興局農務部

## 例　　言

## 凡　　例

1. 本書は、2004（平成16）年度に実施した山梨県北杜市長坂町白井沢字西下屋敷地内に所在する西下屋敷遺跡の発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は、田園交流基盤整備事業に伴う事前調査であり、山梨県県北地域振興局農務部より委託を受けて長坂町教育委員会が実施し、町村合併後北杜市教育委員会が引き継ぎ、整理作業を実施したものである。

3. 本書の執筆・編集は、村松佳幸（北杜市教育委員会長坂郷土資料館担当兼文化財担当）が行い、図版作成は主に、長谷川敏（旧長坂町教育委員会 学芸員）が行った。

4. 発掘調査および整理作業において一部の業務を以下の機関に委託した。

基準点測量・航空測量　（株）シン技術コンサル

5. 遺構の写真撮影は長谷川が行い、遺物の撮影は村松が行った。

6. 本報告書に関わる出土品及び記録図面・写真等は、北杜市教育委員会に保管している。

7. 発掘調査および報告書作成にあたって、多くの方々に多大なご指導、ご教示を賜った。ここに深く感謝の意を表す次第である。

1. 掲載した遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として下記のとおりである。

遺構 調査区全体図：1/250　住居跡：1/60

土坑・ピット：1/30

遺物 純文上器：1/3　石器：2/3または1/3

2. 遺構図版中の遺物分布のマークは、各図版中に示してある。

3. 遺構および遺物写真の縮尺は統一されていない。

4. 遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。

5. 第1図は、株式会社写測2000年調整、1/25,000長坂町全図（国土地理院発行1/25,000地形図を複製したもの）を基に作成した。

6. 第2図は、国際航業株式会社1994年調整1999年修正、1/10,000長坂町全図を基に作成した。

## 目 次

## 挿 図 目 次

例言・凡例	第1図 周辺の遺跡 (1/25,000) .....	5
本文目次・挿図目次・表目次・写真図版目次	第2図 調査区位置図 (1/2,500) .....	6
第1章 調査の経緯と概要.....	第3図 調査区全体図 (1/250) .....	7
1. 調査に至る経緯	第4図 1号住居跡.....	8
2. 調査の概要	第5図 土坑.....	9
3. 発掘調査組織	第6図 出土土器.....	10
第2章 遺跡周辺の環境.....	第7図 出土石器.....	11
1. 地理的環境	第8図 遺物分布.....	12
2. 歴史的環境		
第3章 発見された遺構と遺物.....		
1. 基本層序		
2. 住居跡		
3. 土坑・ピット		
4. 清		
5. 遺構外山上遺物		
第4章 調査の成果と課題.....		
参考文献.....		

## 表 目 次

## 写 真 図 版

第1表 周辺遺跡一覧表.....	13	図版1 調査区全景 (西から)、調査区全景 (北から) 調査区全景 (真上から)、1号住居跡
第2表 上坑・ピット一覧表.....	13	1号住炉跡
第3表 土器觀察表.....	14	図版2 5号土坑、6号土坑、2・3号溝、調査風景 出土土器①、出土土器②、出土石器① 出土石器②
第4表 石器觀察表.....	14	

## 第1章 調査の経緯と概要

### 1. 調査に至る経緯

山梨県は、農村間の交流を促進する田園交流墓蓋整備事業を立ち上げ、平成14年度に鳥久保集落から越中久保溜池の脇を通り、県道長沢・小瀬沢線に至るまでの集落道を括幅及び新設する計画をし、町農林業振興課を通じそのルート上の埋蔵文化財包蔵地の有無を町教育委員会に照会した。ルート上には5つの遺跡が存在することを回答したが、包蔵地以外にも遺跡がある可能性が高いと思われたので、工事予定区城は試掘調査を実施することになった。

平成15年度に試掘調査を行い、西下尾敷遺跡内で遺物と構造が確認され、本調査の必要が出てきた。駿北地域振興局農務部、町農林業振興課、町教育委員会の三者で協議し、路線変更や工法変更等で遺跡の保存が出来ないため、本調査を実施することになった。平成16年5月埋蔵文化財免掘についての通知が提出された。

本調査は、平成16年5月13日発掘調査を開始し、6月16日終了した。

### 2. 調査の概要

今回の調査は、1973（昭和48）年に行われた発掘調査（木本1975）に続き、第2次調査にあたる。調査面積は410m<sup>2</sup>である。道路建設に伴う発掘調査のため調査区は東西約45m、南北に約9mと東西に細長い形をしている。

調査区は、基準点測量を行い、この点に基づき、調査区の南西側に原点を設け、そこから10m四方のグリッドを設定した。西から東に1～6、南から北へA～Eとグリッド名をつけた。

耕作土が20～30cmほど堆積しており、人力により遺構確認面まで掘削していった。その後丁寧に遺構の確認を行った。遺物は出土原位置で光波測量機による記録・取り上げ作業を行った。遺構内の遺物については、その遺構出土のものとして取り上げていった。

遺構は上層断面・遺構平面図を簡易造り方による手実測、または光波測量器により図化した。全体図は空中写真測量で図化した。また、調査の状況に応じて写真撮影を行った。

調査後は統けて整理作業に入り、平成17年3月に完了した。

発見された遺構は、紀文時代中期末～後期初頭と考えられる堅穴住居跡1軒、上坑7基、ピット10基、時期不明の溝3条である。

### 3. 発掘調査組織

発掘調査組織は以下のとおりである。

《～平成16年10月31日》

事業主体 長坂町教育委員会

事務局 教育長 小尾章臣（兼教育課長事務取扱）

社会教育係長 奥石君夫

調査担当 長谷川誠（教育委員会 学芸員）

《平成16年11月1日～》

事業主体 北杜市教育委員会

事務局 教育長 磐巻宣夫・小清水淳三

教育次長 小池光和

生涯学習課長 伏見武仁

整理担当 村松佳幸

（長坂郷上資料館担当兼文化財担当）

発掘作業員 秋山かつみ 小尾トヨ子 國府田孝吉

小林裕 小林立枝 清井義雄

名取初了 横山幸男

整理作業員 有野明子 井出仁美 清井ゆき枝

日向登茂子

## 第2章 遺跡周辺の環境

### 1. 地理的環境

本遺跡は山梨県北杜市長坂町白井沢字西下屋敷地内に所在する。北杜市は、平成16年11月1日に北巨摩郡下の7町村が合併して出来た新しい市である。山梨県の北西部に位置し、八ヶ岳・甲斐駒ヶ岳・茅ヶ岳・瑞牆山等を含む広大な面積の市である。

その中で長坂町は八ヶ岳南麓に位置する南北約18km、東西約6kmの細長い町である。八ヶ岳の山体が崩壊し起こった崩壊岩屑流によって形成された台地上にあり、標高1,200m以上が急峻な山岳地帯になっており、それ以下は比較的緩やかな地形となり、八ヶ岳南麓高原や長坂台地、八ヶ岳南麓低地等が広がる。長坂町南端より南は、泥流台地を釜無川と塩川の浸食作用によって形成された通称七里岩と呼ばれる浸食崖が形成されている。

八ヶ岳南麓には、比較的多くの湧水があり、これを水源とする小河川が南流し、浸食作用によっていくつもの舌状台地を形成している。台地上は水利が悪いため、豊富な水量の湧水を引いて開発した灌漑用水や灌漑用溜池が数多く、県下で最も溜池の多い地域となっている。また、それを利用した水稻耕作が行われ、古くから八ヶ岳

南麓地域でも有数の水田地帯となっている。

本遺跡の所在する白井沢地区は、町中央の北寄りに位置し、東に鳩川、西に高川が南流し、南側を中央自動車道とJR中央線が走っている。地区的北側には、比較的緩傾斜地が広がっているが、中央から南側にかけて八ヶ岳山体崩壊の際に出来た流山があり、起伏の激しい地形を呈している。

本遺跡は、高川左岸の台地平坦部に立地している。標高は約815mである。台地の幅は約150mで、扇形をしている。中央高速自動車道から約20m北に離れたところが今回の調査区である。

## 2. 歴史的環境

本遺跡がある白井沢地区は、中央自動車道建設に伴う発掘調査が行われている。

1973（昭和48）年、中央自動車道建設に先立ち下フノリ平遺跡・葛原遺跡、西下屋敷遺跡が発掘調査されている。山梨県教育委員会が調査し、遺構は発見されなかったが、下フノリ平遺跡から縄文時代中期の上器片と石器が、葛原遺跡から縄文時代中期と晩期末～弥生時代初頭の土器片と石器が、西下屋敷遺跡から縄文時代中期～後期の土器片と石器がそれぞれ出土した（末木1975）。また、西下屋敷遺跡の後期土器は、当時八ヶ岳南麓での発見が少なかったので、『信濃』で報告されている（末木・伊藤1976）。

1997（平成9）年～1998（平成10）年、中央自動車道八ヶ岳バーティングエリア改築に伴い、横針前久保遺跡・米山遺跡・横針中山遺跡が山梨県埋蔵文化財センターにより発掘調査された（村石他2000）。横針前久保遺跡から局部崩落石斧やナイフ形石器が発見され、山梨県でも最古級の約3万年前の遺跡と考えられ、当時活動となつた。伊豆七島の神津島を原産とする黒曜石片も確認され、当時の人々の移動や交流の様子を知る手がかりとなつた。現在、上り方面のバーティングエリア外壁には、さかいひろこ氏による旧石器人の壁面が飾られ、当時の生活の様子を想像させてくれる。

横針中山遺跡からは、地下式坑6基、堅穴2基、集石1基、土坑・ピット190基が発見され、渡来銭や中国青磁片が出土した。小ピットを伴う土坑も発見され、その中から灯明皿1点と古錢34枚が出土している。江戸初期に古刹「中山寺」があったと伝えられており、中央自動車道本線部分に五輪塔群があつたこともあり、この付近は中世から近世の墓地と考えられている。

米山遺跡は、焼土が12ヶ所確認された以外遺構は発見されなかつたが、縄文時代早期～前期初頭・諸葛式・

晩期末～弥生時代前期・中期の上器片が多数出土した。

本遺跡からやや離れる同じ白井沢地区で、1986（昭和61）年に県営は場整備事業に先立ち轟屋敷遺跡が旧長坂町教育委員会により発掘調査されている。縄文時代の堅穴住居跡1軒、屋外炉8基、土坑25基、溝2条が発見されている。屋外炉は縄文時代後期の上器を伴うものが多い。1号溝からは茶臼の下臼が完全な形で出土している。

隣の地区になるが、本遺跡から南東方向に約800m離れた所に越中久保遺跡がある。縄文中期後半の住居跡4軒、該期のものと思われる掘立柱建物跡2棟、土坑30基などが発見されている。特に土坑は中期末～後期初頭にかけてのものがあり、そのほとんどが低地に立地する貯蔵穴と考えられている。調査区から中期末～後期初頭の住居跡は発見されていないが、調査区周辺に存在する可能性が高いと思われる。

## 第3章 発見された遺構と遺物

### 1. 基本層序

今回の調査区の層序は、耕作土である表土の下は黄褐色ローム層になり、それが地山で遺構が構築されている。

一部その間に黒褐色土が入ってくるが、ごく狭い範囲である。調査区東側は重機による掘削で擾乱されており、この地を畠地にする際、かなりの削平を受けたと思われる。

### 2. 住居跡

#### 1号住居跡

（位置）C-2グリッドに位置する。

（重複）2号様に切られている。

（規模）推定であるが、直径約6mになると思われる。

（形状）円形と考えられる。

（床面）硬化面は確認出来なかつた。床面が削平されている可能性も考えられる。

（施設）住居中心部、調査区の壁に炉の北側半分が発見された。礫や埋甕等は確認できなかつた。

ピットは6本確認されているが、その内の4本が柱穴と考えられる。

（遺物）第6図1～10。1～3・7・10は縄文後期の土器であろう。工具による削り痕が見られる。4・5は縄文中期末、6・8・9は縄文後期初頭稱名寺式である。

第7図44・51。44は黒曜石製の石鏁である。51は打製石斧である。

(遺物出土状況) 第4図下段、全休的に散在している。ほぼ床面からやや浮いた状態で出土している。住居跡の覆土はほとんど削平されているためであろうか。

(時期) 1号住居跡から出土した土器は、すべて小片で大型破片や完形に近いものは出土していないが、ほとんどが中期末～後期初頭にかけてのものであるので、住居跡の時期もそれに該当すると考えられる。

### 3. 土坑

#### 1号土坑(第5図上段左)

(位置) D-2グリッドに位置する。

(規模) 長径108.8cm、短径97.8cm、深さ19.6cmである。

(形状) 不整な円形を呈する。2号土坑と重なる。

(遺物) 土器片は出土しなかった。

(遺物出土状況) 扇平な大礫が数点出土した。

(時期) 不明である。

#### 2号土坑(第5図上段左)

(位置) D-2グリッドに位置する。

(規模) 長径97.7cm、短径79.5cm、深さ36.7cmである。

(形状) 不整な円形である。

(遺物) 第6図II。五領ヶ台式集合沈線文の土器片である。

(遺物出土状況) 30cm大的の礫が中央やや西寄りから出土している。

(時期) 五領ヶ台式期であろう。

#### 5号土坑(第5図下段左)

(位置) C-3グリッドに位置する。

(規模) 長径119.5cm、短径99.7cm、深さ20.8cmである。

(形状) 楕円形である。

(遺物) なし。

(時期) 不明である。

#### 6号土坑(第5図上段右)

(位置) C-4・C-5グリッドに位置する。

(規模) 長径173cm、短径104cm、深さ38.7cmである。

(形状) 不整な椭円形である。

(遺物) なし。

(時期) 不明である。

#### 7号土坑(第5図下段右)

(位置) B-4グリッドに位置する。

(規模) 長径160.5cm、短径150.5cm、深さ50.6cmである。

(形状) 不整な円形である。

(遺物) なし。

(時期) 不明である。

### 4. 溝

#### 1号溝

(位置) C-2・D-2グリッドに位置する。

(規模) 検出した長さ850cm、幅40~80cm、深さ5~15cmである。

(形状) 南北方向にほぼ直線状に伸びている。削平されたためであろうか、調査区内で途切れている。幅はあるまい一定していないが、これも削平されたことによるものかもしれない。

(遺物) なし。

(時期) 不明である。

(備考) 現在の地割りに、位置はずれるがほぼ並行するので、区画溝の可能性が高い。

#### 2号溝

(位置) C-1・C-2・D-1グリッドに位置する。

(規模) 検出した長さ370cm、幅40~60cm、深さ5~15cmである。

(形状) 北北西に向かって、やや東側にふくらみながら、弧を描くように伸びている。削平されたためであろうか、調査区内で途切れている。3号溝と並行している。

(遺物) なし。

(時期) 不明である。

(備考) 根拠はないが、3号溝と並行する溝なので、道の可能性もある。両者の間に硬化面は確認できていないが、削平されている可能性も考えられる。

#### 3号溝

(位置) C-1・D-1グリッドに位置する。

(規模) 検出した長さ230cm、幅40~70cm、深さ5~7cmである。

(形状) 北北西に向かって、やや東側にふくらみながら、弧を描くように伸びている。2号溝と並行している。

(遺物) なし。

(時期) 不明である。

(備考) 根拠はないが、2号溝と並行する溝なので、道の可能性もある。両者の間に硬化面は確認できていないが、削平されている可能性も考えられる。

#### 4号溝

(位置) B-3・B-4・C-4グリッドに位置する。

(規模) 検出した長さ930cm、幅120~170cm、深さ7~

16cmである。

(形状) 北東にはほぼ直線状にのびている。南側の一部は重機による削平を受けている。

(遺物) なし。

(時期) 不明である。

(備考) 現在の地割りと重なるので、区画溝の可能性が高い。

## 5. 遺構外出土遺物

第6図15・17・35は縄文後期の土器と思われる。16・23～25・27～32・34・39は縄文中期、18は縄文中期、19は縄文中期初頭五領ヶ台式、20・21・43は縄文晚期、22・26・33・36～38・40～42は縄文後期初頭名寺式である。

第7図45は凹基無茎の石錐、46はつまみ部のある石錐、47は2次加工のある剥片、49・50は打製石斧、51は剥片、52は横刃形石器、53は敲打痕のある磨石、54は石核である。47は正面図上部に2次加工を施している。剥片を薄くしようとしたと考えられるが、その剥離の末端は階段状になっており、薄くするのに苦労した様子がうかがえる。正面図下端部には刃こぼれのような微細剥離があり、削器のように使用された可能性がある。

調査区の出土状況を第8図に示す。遺物全体の出土傾向は、住居跡のある西側に多い。東側は特に重機による削平が激しく、遺物分布も散漫である。また、南側に多く出土するのは、わずかながらも南側に傾斜しているからかもしれない。

土器の時期別分布を見ると、やはり西側に多く出土する傾向がある。黒曜石や石器も同様である。調査区範囲の狭さや削平の激しさもあり断定できないが、この土地での活動の痕跡は少ないと考えられる。

## 第4章 調査の成果と課題

今回の調査は、1973（昭和48）年に中央自動車道建設時以来の発掘調査であり、第2次調査となる。2つの調査区は約50m離れており、今回の調査区が北に位置する（第2図）。73年調査の報告の折、その北側（今回の調査区がある付近）に、遺跡の主要地域が存在すると推定された（末木1975、末木・伊藤1976）。果たして、今回の調査で縄文中期～後期初頭と考えられる住居跡が1軒確認でき、前述の推定を実証する結果となった。

しかし、その住居跡は、覆土がほとんどなく床面も削平されている可能性が考えられるなど、遺存状況が悪く、

その周辺もかなり削平されていた。調査区外も同様と考えられ、本遺跡は後世の活動の影響により、遺存状況の悪い遺跡であるといえる。

出土した土器は縄文中期初頭、中期～後期初頭、晩期のものであり、そのほとんどが中期～後期初頭である。73年調査でも縄文前期木諸磧式、中期～後期前半が出土し、その主体は中期式である（末木・伊藤1976）。よって本遺跡は中期～後期初頭を主体とする小規模な集落跡で、前期～中期初頭、晩期でも活動の痕跡を残している遺跡といえる。遺物が出土していない中期前葉～後葉、後期後半では本遺跡から生活の痕跡がなくなるのであるが、時期的な遺跡立地の差が、周辺遺跡と比較することによって見てくるであろう。

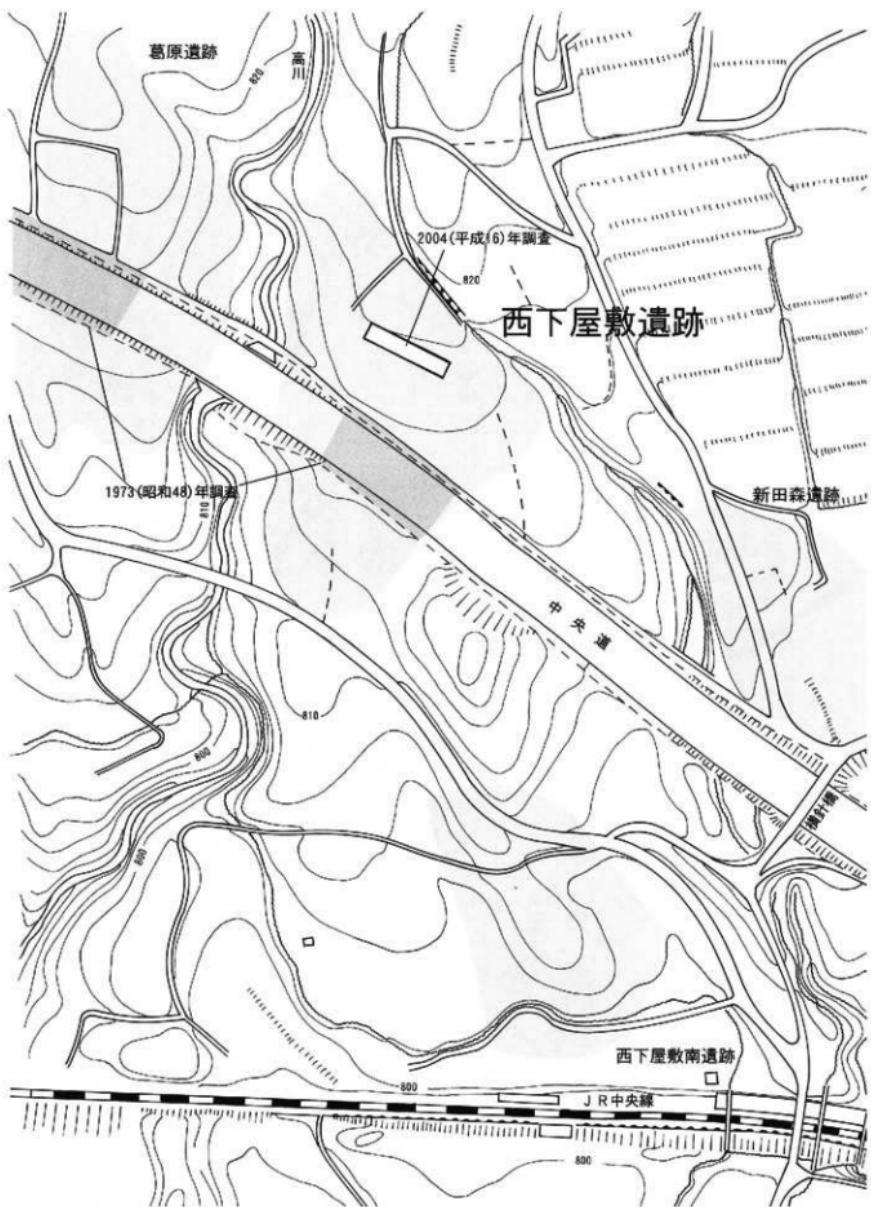
また、本遺跡の主体時期である中期～後期初頭を見てみると、東に約200m離れた所に新田森遺跡が、南東に約800mは離れた所に越中久保遺跡がある。新田森遺跡からは該期の住居跡が2軒、越中久保遺跡から該期の貯蔵穴と思われる土坑が発見されており、本遺跡と何らかの関わりがあった可能性が指摘できる。

### 【参考文献】

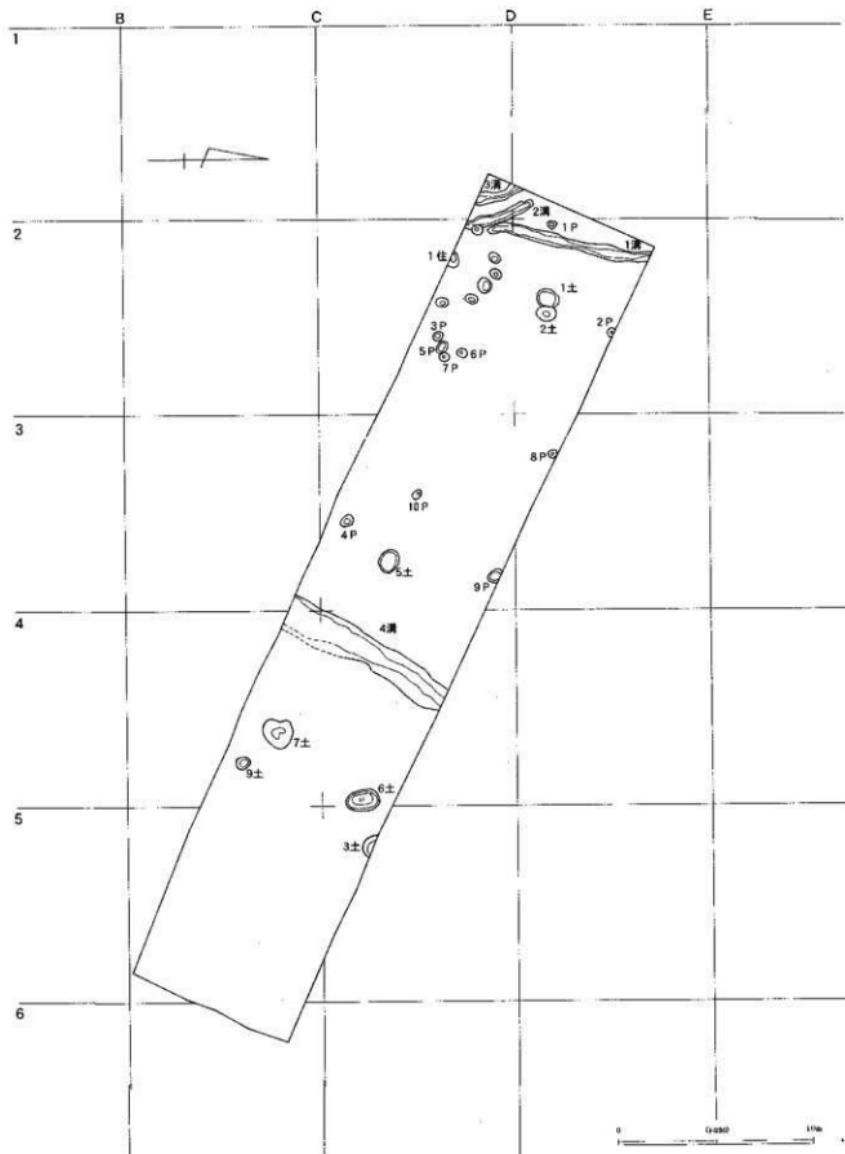
- 末木 健 1975『山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘 調査報告書—北巨摩郡長坂・甲野・苗崎地内—』山梨県教育委員会  
末木 健・伊藤恒彦 1976『山梨県長坂町西下屋敷遺跡の縄文後期土器』『信濃』第28巻 第6号 信濃史学会  
小田澤佳之・櫻井真貴 1987『深草遺跡・別当十三塚遺跡・別当遺跡（第2次）・桜井敷遺跡』長坂町教育委員会  
長坂町誌編纂委員会 1990『長坂町誌』上巻 長坂町  
小宮山隆 1997『小屋敷遺跡』長坂町教育委員会  
小宮山隆 1997『別当西遺跡』長坂町教育委員会  
山梨県 1999『山梨県史』資料編2 原始・古代2 考古（遺構・遺物） 山梨日日新聞社  
村松佳幸 1999『宮久保遺跡』長坂町教育委員会  
村石真澄他 2000『横針前久保遺跡・米山遺跡・横針中山遺跡』山梨県教育委員会  
小宮山隆 2002『越中久保遺跡』長坂町教育委員会



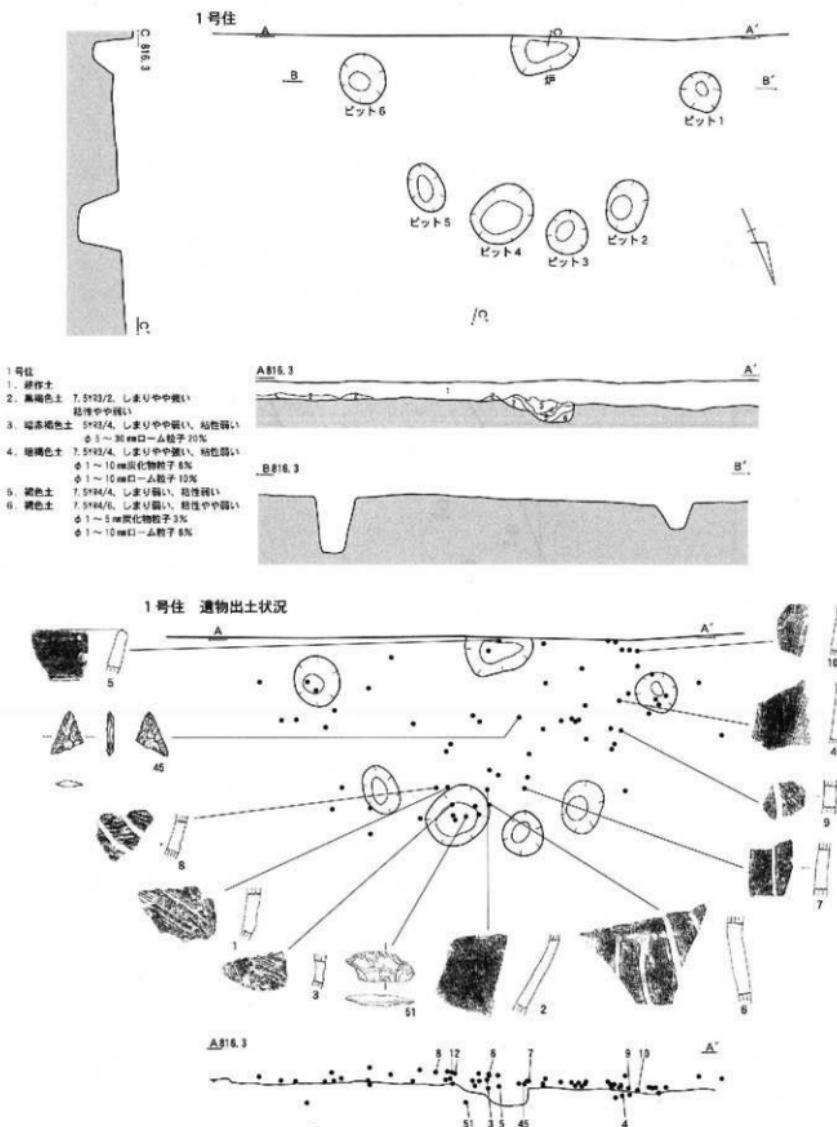
第1図 周辺の遺跡 (1 / 25,000)



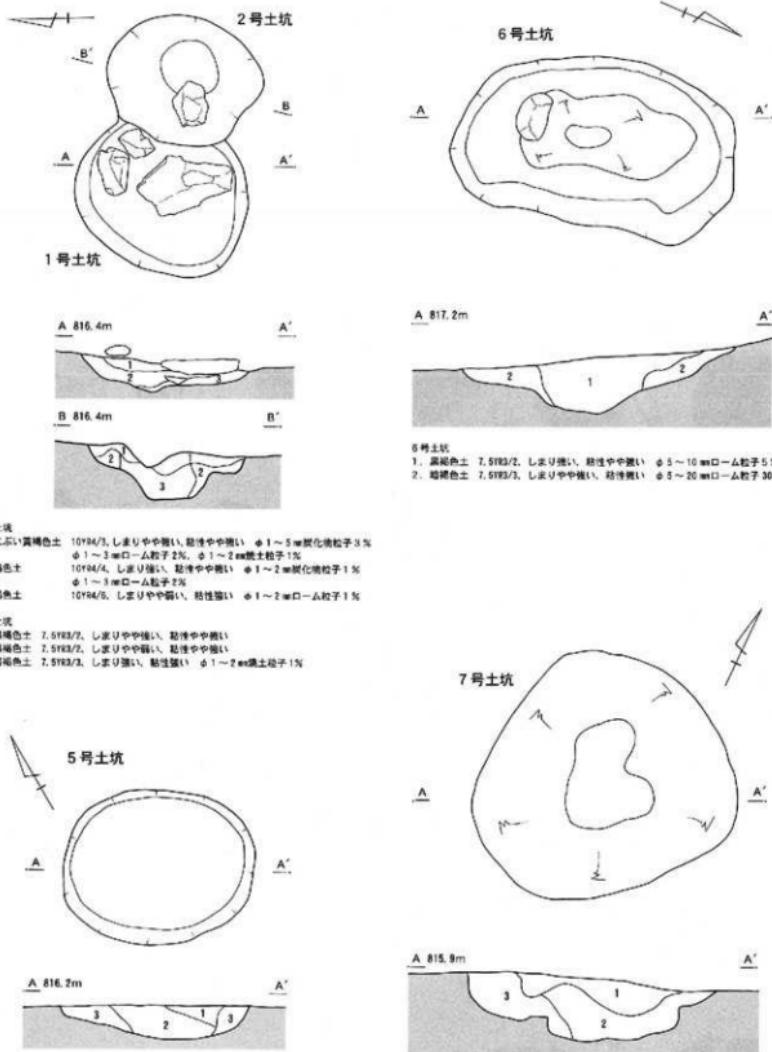
第2図 調査区配置図 (1 / 2,500)



第3図 調査区全体図 (1/250)



第4図 1号住居跡



**5号土坑**

1. 黄褐色土 10YR3/3, しまりやや弱い, 粘性やや弱い  $\phi 1 \sim 3$  mm ローム粒子 4%  
 2. 暗褐色土 10YR3/3, しまりやや強い, 粘性やや弱い  $\phi 1 \sim 2$  mm 腐化物粒子 1%  
 $\phi 1 \sim 5$  mm ローム粒子 10%

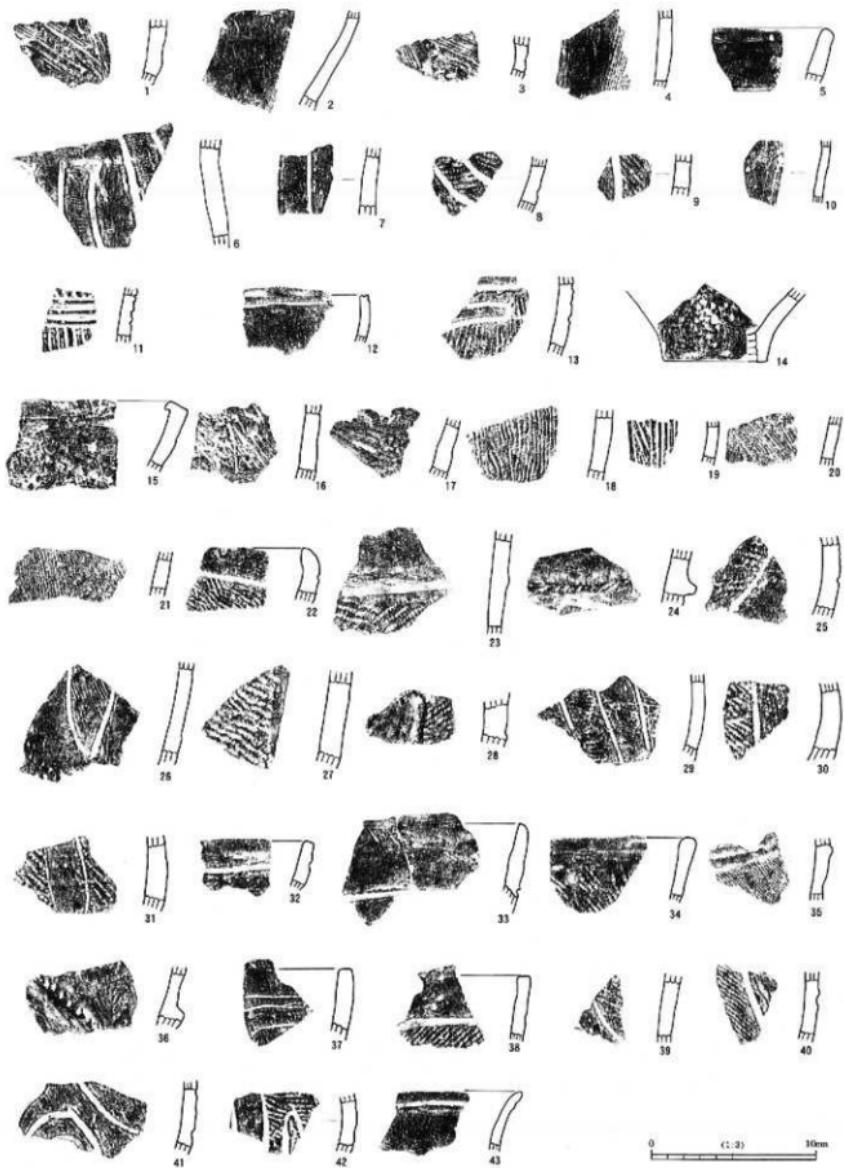
3. 暗褐色土 10YR3/3, しまりやや弱い, 粘性やや弱い  $\phi 1 \sim 2$  mm ローム粒子 3%

**7号土坑**

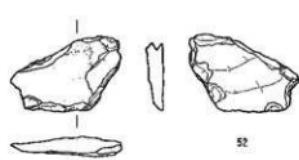
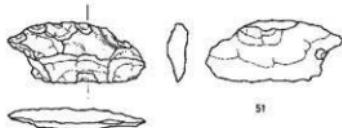
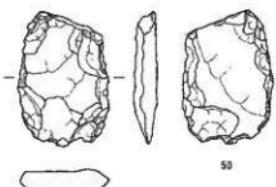
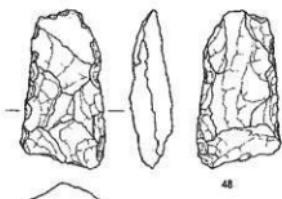
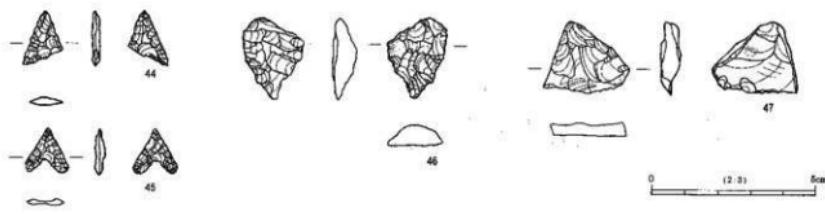
1. 黄褐色土 7.5YR3/3, しまり強い, 粘性やや弱い  $\phi 1 \sim 10$  mm ローム粒子 3%  
 $\phi 1$  mm 腐土粒子 2%

2. 暗褐色土 7.5YR3/4, しまり強い, 粘性やや弱い  $\phi 5 \sim 15$  mm ローム粒子 4%  
 3. 暗褐色土 10YR3/4, しまり強い, 粘性強い  $\phi 5 \sim 20$  mm ローム粒子 10%

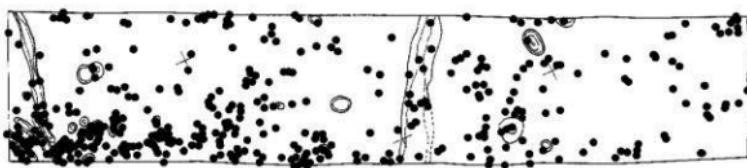
第5図 土 坑



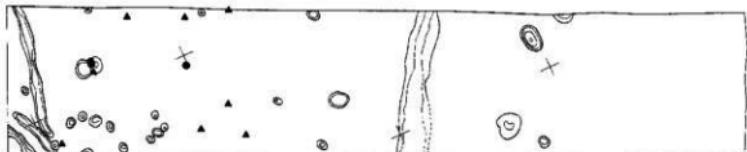
第6図 出土土器



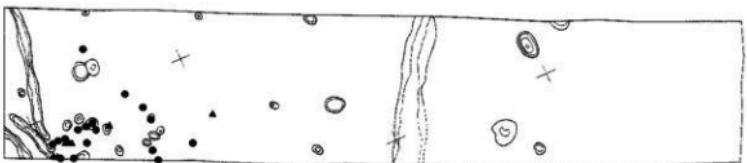
第7図 出土石器



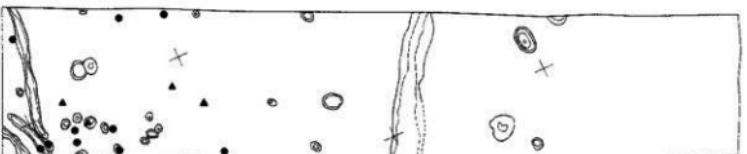
遺物全体



中 期 ●=初期 ▲=後半



後 期 ●=初期 ▲=後半



●=黒曜石、▲=石器

第8図 遺物分布

第1表 周辺遺跡一覧表

002 法性寺前遺跡 繩 中	033 上ノリ平北遺跡 繩	080 和手山東遺跡 中
003 佐々木原遺跡 繩	034 上ノリ平直遺跡 繩	081 小尾丘遺跡 旧石 繩 中
004 小糸間古戦場跡 桶田	035 上ノリ平西遺跡 繩	082 間の京遺跡 調
005 松塚遺跡 平 江戸	036 下ノリ平北遺跡 繩	083 西野東遺跡 平
006 小糸遺跡 江戸	037 芳原遺跡 繩 弐	084 西野東遺跡 繩
007 斎間遺跡 繩	038 下ノリ平直遺跡 繩	085 西野南遺跡 繩 平
008 板塙南遺跡 繩	039 下ノリ平南遺跡 平	086 和千遺跡 繩 平
009 舛屋敷東遺跡 繩	040 別当遺跡 繩	087 直平北遺跡 繩 平
010 舛屋敷北遺跡 繩	041 別当西遺跡 繩	088 猫平遺跡 繩 平
011 舛屋敷遺跡 繩	042 別当十三塚 中	089 大平遺跡 繩 平
012 牛久保遺跡 繩 弐	043 南新田北遺跡 繩 平 中	090 下島久保遺跡 繩
013 牛久保南遺跡 繩	044 深草館跡 桶田	091 島久保遺跡 繩 江戸
014 沢入遺跡 普沼氏館跡 調	045 小和出遺跡 繩 平 中	100 高松遺跡 繩
015 宇平丁遺跡 繩	048 新宿店西遺跡 平	101 鮎平・藤塚
016 真下至堅遺跡 繩	049 小利田館跡 平 桶田江戸	102 横針中山遺跡 中
017 西下屋敷遺跡 繩 中	050 木山遺跡 繩 亦	104 人林遺跡 旧石 繩 平 江戸
018 新田森遺跡 繩	051 米山東遺跡 繩	105 中込遺跡 繩
019 四下屋敷南遺跡 繩	061 原山遺跡 繩 平	106 子白尾東遺跡 繩
020 横子遺跡 繩 中	064 小屋敷遺跡 繩 平 中	108 上町南遺跡 繩
021 神ノ原遺跡 繩	065 久保地遺跡 繩	109 新宿区健康村遺跡 旧石 繩 平 中 江戸
022 早敷附遺跡 繩 中	066 成岡遺跡 繩 亦 平 中	110 小込北遺跡 繩
023 内城遺跡 繩	067 成岡新田遺跡 弐 平 中	112 丹平の土器
024 十郎林遺跡 繩 中	068 出山遺跡 繩 平	113 成間・藤塚
025 阿原遺跡 平	072 朝久保遺跡 繩 平 中 江戸	117 竹原遺跡 繩 中 江戸
026 中尾根遺跡 繩	073 久保遺跡 繩	118 天白遺跡 中 戰国
027 手白毛遺跡 繩	074 房屋敷遺跡 繩 江戸	201 横針前久保遺跡 旧石 繩
028 大城岩遺跡 繩	075 地ノ平遺跡 繩	202 横針宮久保遺跡 繩 平
029 横山1遺跡 繩	076 東窓3遺跡 平	203 深草遺跡 平
030 横山2遺跡 繩	077 東窓2遺跡 繩 平	205 中田遺跡 繩
031 横山4遺跡 繩	078 東窓4遺跡 繩 平	207 池之庄遺跡 繩 平
032 萩原北遺跡 繩	079 東窓1遺跡 繩 平	

第2表 七坑・ピット一覧表

遺構名	出土位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	時 期	備 考
1号住 ピット1	C-2	54	49	30.3		
1号住 ピット2	C-2	66	48	34.8		
1号住 ピット3	C-2	58.5	49	35.6		
1号住 ピット4	C-2	80	67.5	51	打製石斧1点(第7図48)出土	
1号住 ピット5	C-2	62	40.5	31.2		
1号住 ピット6	C-2	61	55	50.6		
1号土坑	D 2	108.8	97.8	19.6		
2号上坑	D-2	97.7	79.5	36.7	縄文 中期初頭	玉環ヶ台式の上器片2点(第6図11)出土
3号十坑	C-5	122	(58)	29.3		
4号土坑	B-4	72	65	25.7		
5号土坑	C-3	119.5	99.7	20.8		
6号土坑	C-4, C-5	173	104	38.7		
7号土坑	B-4	160.5	150.5	50.6		
1号ピット	D-2	53	50	37.8	縄文 晩期	縄文晩期の土器片出土(第6図12)
2号ピット	D 2	55	138	33.2		
3号ピット	C-2	54	46	22.8	縄文 後期	縄文後期の土器片4点出土
4号ピット	C-3	74	58.5	33.1		
5号ピット	C 2	71	52	19.7	縄文 後期	縄文後期の上器片2点出土
6号ピット	C-2	55	50.5	27.7	縄文 後期	縄文後期の土器片2点(第6図13)出土
7号ピット	C-2	51	46	27.6	縄文 後期	縄文後期の土器片1点出土
8号ピット	D-3	49	43	31.3	縄文	縄文土器片3点(第6図14)出土
9号ピット	C-3	84	61	18.2		
10号ピット	C-3	57.5	42.5	22.4		

( ) は残存値

第3表 土器観察表

回	番号	出土場所	形態	窓穴	特徴	量	色	種	建 主
第4回	1	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	22.6	(外) に凹八角、削(内) に凹八角、切欠	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	2	寺田	陶土追削	—	タペリ模様	22.6	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	3	寺田	鍔口付鉈	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	17.5	(外) に凹八角、削(内) に凹八角、切欠	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	4	寺田	鍔口付鉈	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	21	(外) に凹八角、削(内) に凹八角、切欠	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	5	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	16.6	(外) に凹八角、削(内) に凹八角、切欠	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	6	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	21.6	(外) に凹八角、削(内) に凹八角、切欠	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	7	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	17.2	(外) に凹八角、削(内) に凹八角、切欠	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	8	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	15.5	(外) に凹八角、削(内) に凹八角、切欠	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	9	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	11.1	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	10	寺田	鍔口付鉈	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	7.9	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	11	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	12.5	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	12	寺田	鍔口付鉈	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	19	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	13	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	16.2	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	14	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	26.2	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	15	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	41.8	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	16	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	31.6	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	17	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	26.9	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	18	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	33.1	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	19	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	8.6	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	20	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	22.4	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	21	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	16	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	22	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	23.5	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	23	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	33.1	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	24	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	42.1	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	25	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	26.4	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	26	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	47.9	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	27	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	26.7	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	28	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	31.2	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	29	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	54.5	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	30	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	51.2	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	31	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	37.5	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	32	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	14.2	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	33	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	47.1	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	34	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	31.4	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	35	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	19.7	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	36	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	22.6	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	37	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	13.4	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	38	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	33.9	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	39	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	16.3	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	40	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	20.3	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	41	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	25.6	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	42	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	35.5	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	
第4回	43	寺田	高文底附	—	人頭状刃のケメリ系刀頭	35.5	(外) に凹八角、削(内) に凹八角	灰石、石英、漂白粉子、白色砂子、白色粘土	

第4表 石器観察表

回	番号	器種	石材	山上位置	最大径(φ)	第二大径(φ)	第三大径(φ)	重量(kg)	備考
第7回	44	石礫	黒曜石	1号劣化	1.7	(1.3)	0.3	0.3	片脚部欠損
第7回	45	石礫	黒曜石	遺構外	1.4	1.3	0.3	0.2	
第7回	46	石錐	黒曜石	遺構外	2.5	1.8	0.7	2.6	
第7回	47	2次加工のある鉈	黒曜石	遺構外	2.6	2.2	0.6	3.1	微細削除あり、削器?
第7回	48	打製石斧	燧岩	1号住ビット4	8.3	3.7	1.5	32.3	
第7回	49	打製石斧	燧岩	遺構外	(9.8)	5.2	2.7	139.3	
第7回	50	打製石斧	ホルンフェルス	遺構外	(8.2)	5.6	1.5	79.2	
第7回	51	削片	安山岩	遺構外	(7.2)	4.0	1.1	28.7	
第7回	52	横刃形石器	霰灰岩	遺構外	6.7	4.7	1.1	32.1	
第7回	53	磨石類	安山岩	遺構外	13.9	6.1	4.8	572.0	敲打痕あり
第7回	54	石核	黒曜石	遺構外	3.9	3.4	2.6	33.4	



調査区全景（西から）



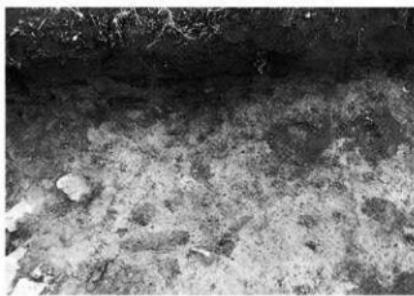
調査区全景（北から）



調査区全景（真上から）



1号住居跡



1号炉跡

図版2



5号土坑



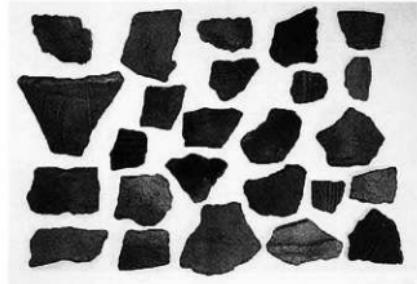
6号土坑



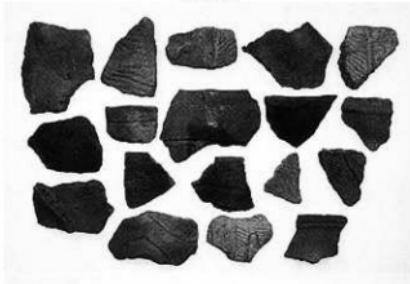
2・3号井



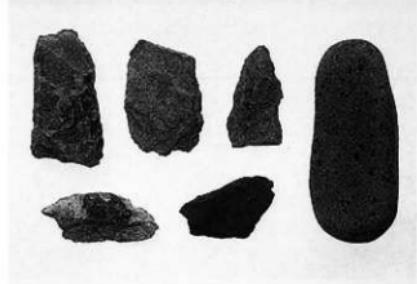
調査風景



出土石器①



出土石器②



出土石器③



出土石器④

# 報告書抄録

ふりがな	にししもやしきいせき
書名	西下屋敷遺跡
別書名	田園交流基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	5
編著者名	村松佳幸
編集機関	北杜市教育委員会
所在地	〒 408-0188 山梨県北杜市須玉町大豆生田 961-1 TEL 0551-42-1373
発行年月日	2005年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北 緯 ○. ′ ″	東 經 ○. ′ ″	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にししもやしきいせき 西下屋敷遺跡	やまとにしきいせき 山梨県北杜市長坂 ちよさく ひがさかわあさかにしきいせき 町白井沢字西下屋 じきや 敷 數	192091	4017	36° 50' 57"	138° 21' 27"	20040513 ~ 20040616	410	田園交流基 盤整備事業

所収遺跡名	種 別	古な時代	古な遺構		古な遺物	特記事項
			住居跡	土坑		
西下屋敷遺跡	集落	縄文時代	住居跡 1軒、土坑 7基、ビット 10基		縄文土器、石器、黒曜石片	

要約	縄文時代中期末～後期初頭の小規模な集落跡。
----	-----------------------

北杜市埋蔵文化財調査報告 第5集

## 西下屋敷遺跡

2005年3月25日 印刷

2005年3月31日 発行

編集・発行 北杜市教育委員会

〒408-0188

山梨県北杜市須玉町大豆生田 961-1

TEL 0551-42-1373

印 刷 鬼灯書籍株式会社

〒381-0012 長野県長野市柳原 2133-5

TEL 026-244-0235 (代)

